1.　評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成２０年　１月２５日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７０３０２６３６		
法人名	ＭＣＰ有限会社		
事業所名	グループホームつどい「宝柳家」		
所在地	〒963-0551　福島県郡山市喜久田町字前北原５３－１１５ （電　話）024-927-1507		
評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年12月19日	評価確定日	平成20年2月8日

【情報提供票より】（平成19年11月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１８年　３月　１日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	19 人	常勤 15人，非常勤4人，常勤換算 16.8人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　全　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	48,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費13,800円 リネン代　1,200円
敷　金	有（　円）	無		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（100,000　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	400　円	昼食	450　円
	夕食	450　円	おやつ	0　円
	または1日当たり　1,300　円			

（４）利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護１	5 名	要介護２	4 名		
要介護３	4 名	要介護４	3 名		
要介護５	1 名	要支援２	0 名		
年齢	平均　84.29 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	さがわ内科・消化器科クリニック、牧歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧会津街道と磐越西線の間にある２階建て２ユニットのホームである。窓からは季節ごとの風景や列車（時にはＳＬも通る）を眺めることができる自然豊かなロケーションである。設立から２年弱であるが、近くにスーパーができ、周りの環境が変化してきており、買い物や散歩の楽しみが増えてきている。ホームでは利用者と職員がなじみの関係を持ちながら安定した生活をしているのがうかがえる。管理者を中心に職員のチームワークも良好で、利用者の表情がとても穏やかである。また、職員一人ひとりが資格取得に意欲的に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	評価結果を全職員で話し合い、介護計画への家族の意見の反映にはアンケート調査の実施や、面会時に意見の聴取等を積極的に行い、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価の重要性を認識しており、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	平成18年6月から運営推進会議運営規則により開催している。当初はホームの現状報告等が主な内容であったが、回を重ねるごとに理解が深まり、委員からいろんな意見や提案などが出され、率直な意見交換がされている。運営推進会議は奇数月の第３木曜日に開催することにしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族へは毎月請求書を送付時にホームでの生活状況や金銭管理等の報告を行っている。宝柳家独自の「つどい新聞」を発行しており、家族の要望で送付先も１利用者につき３ケ所まで送付し、情報提供をしている。また、家族へのアンケート調査を通して家族の意見や思いが容易に把握できる体制となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ボランティア（フラダンス、大正琴、コーラス、スポーツ民謡等）の受け入れは積極的に実施しており、敬老の日には近くの保育園児との交流会を実施している。夏祭りには多くの近隣住民の参加があり、充実してきている。また、中学校の職場体験も受け入れている。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の「つどい10の約束」という共通理念と事業所独自の「心地よい空間の共有」という理念はあるが、地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。	○	地域密着型グループホームとしての具体的な理念の作成が望まれる。理念は職員全員で話し合い、家族や利用者に分かりやすい文言で表現してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化は図られているので、新しい理念についても日々の実践に取り組んでほしい。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	買い物は近くのスーパーやお店を利用している。敬老の日には近くの保育園児の訪問があり、歌や踊り等で交流している。また、文化祭には作品を展示しており、地域との交流の機会が増えてきている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスを振り返りながら課題を明らかにし、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年6月より運営推進会議を開催し、現在まで色々な意見や提案があり、ホームの活動や地域活動に反映させ充実してきている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の際に金銭管理等の報告とともに利用者の様子を報告しており、毎月発行のつどい新聞を一緒に送付している。また利用者の状態の変化等によってはその都度連絡し、情報の共有に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査や意見箱の設置等により、意向の把握に努めている。職員は家族の面会時には気軽に何でも話せるような雰囲気作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はやむを得ない場合のみである。常時ユニット間の交流をしているので、職員も利用者も十分にコミュニケーションがとられている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や職責等に応じて法人内の研修や外部研修に計画的に参加している。また、職員の資格取得に対して支援しており、資格取得した場合には待遇に反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会等に順番に出席し、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なこと（料理、手芸、野菜作り等）や地域の習慣・行事等を教えてもらい、共に生活することを大切にした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話の中で利用者の思いを把握するよう努めている。確認した利用者の気持ちは職員間で情報を共有し、個々の希望に沿った支援をしている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れ、利用者主体の介護計画を作成している。管理者や職員は、面会時や電話等あらゆる機会に家族の意向の確認に努めており、介護計画に反映させている。		家族の要望等は必ず記録し、計画に反映させることが必要だと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は利用者の現状に即したものになるよう、日々モニタリングをし、３か月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状況の変化に応じてその都度介護計画の継続等の検討をして、ケアプランに反映させている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の都合や利用者の状況によっては職員が同行しており、受診結果は家族と情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化と終末期の方針を定め、入居時に家族等に話しており、随時医師と連携し家族の意志を確認しながら支援している。また、医療連携についての同意書をもらっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応の徹底を図っている。また、個人情報の使用目的等の同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに配慮しながら、柔軟に支援している。食事、買い物、外出等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれ自分のできること（調理、配膳、後片付け等）を自然に行っており、職員も利用者も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援している。入浴拒否の場合も声かけのタイミングや別の職員が話しかけるなど状況に応じて対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の力量に応じて、料理、掃除、洗濯物たたみ、農作業等を職員と一緒に行い、張りのある日々を過ごせるよう支援している。 ホームではうさぎを飼っており、うさぎの世話も利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	散歩や買い物は利用者の体調や気候に応じて支援している。また、２～３人の小人数でドライブを楽しんでいる。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関は施錠していない。ユニットごとに職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年１回消防署の協力のもと実施している。また、毎月テーマをもって避難訓練をしている。今後は災害時に地域住民からも協力を得られるよう働きかけが必要だと思われる。災害時の食糧品、飲料水の備蓄はされていない。	○	運営推進委員等の協力を得て、地域住民の理解を得られるよう働きかけることが望まれる。また、早急に災害時の食糧品、飲料水の備蓄をされることが望まれる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスに配慮しており、職員は利用者の食事量や水分摂取量等を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、利用者が自由にくつろげるようテーブルやソファーが配置されている。季節によりこたつも設置され、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。日中はほとんどの利用者が共用空間に集まり過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で明るく、利用者が家で使用していた物（タンス、テーブル、椅子等）を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。		

※ ▒ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名	グループホームつどい「宝柳家」
記入担当者名	越中 八末代

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。